

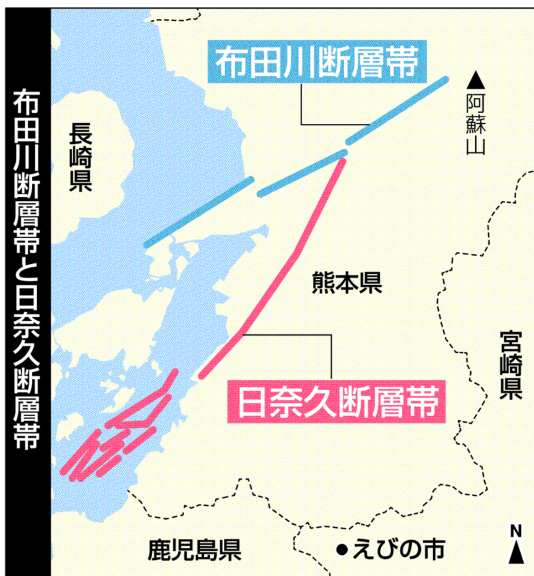
本県でも震度5強が観測された2016年4月の熊本地震は、2度目の激震「本震」から16日で10年を迎える。熊本、大分両県で災害関連死を含め計278人が犠牲となった

### 熊本地震

# 10年

大地震から得るべき教訓などについて、宮崎公立大地域連携・防災研究センターの山下裕亮准教授（観測地震学）に聞いた。（金井佑介）＝4面参照

# 住む土地の特性知って



**宮崎公立大 山下裕亮准教授に聞く**  
**宮崎で暮らす私たちは**

熊本地震は熊本県に分布する活断層の布田川断層帯と日奈久断層帯がずれ動いたことで発生した。このう

ち、日奈久断層帯については、熊本地震で大きくずれたのは断層帯北端部の一部のみで、ほとんどの部分ではひずみは解消されている。現状は、現在もため続けている。今年3月からは有感地震が相次いでいる。芦北地方を震源とする地震

## 教育通じ教訓継承を

県内には布田川・日奈久断層帯のように主要活断層に分類されている断層は現時点で存在していない。ただ、活断層自体は県内でも存在が知られている。また、県内では活断層が見つかっていない領域でも小さな内陸地震は日頃から発生しており、決して安心して

住民の防災リテラシーを向上させることは一朝一夕ではできない。そういう意味でも小学校レベルから時間をかけて教育していくことが大切だ。熊本地震のような内陸地震は発生スパンが長いだけに世代を超えて教訓をつないでいくことが求められる。

は、ずれ残っている日奈久断層帯における地震活動とみられている。

日奈久断層帯全体がずれ動いた場合、最大でマグニチュード(M)7.7〜8.0程度の地震が起こる可能性がある」と国の長期評価でも示されている。本県では沿岸部でも最大で震度5弱、震源により近い県西部のえびの市の一部では震度6弱の揺れが予想され、土砂災害の発生も心配される。

「ここでは地震は起こらない」という思い込みにつながってしまう。

いい訳ではない。

熊本地震が発生した直後、現場からは「熊本でこんな地震が起こるとは思っていなかった」との声も聞かれた。熊本地震から学ぶべきことは、過去に起きた災害も含めて、自分が住む土地の成り立ちをよく知っておく必要性だ。県内では南海トラフ地震や日向灘地震のことばかりを警戒しがちだが、県西部では1968年2月に震度6を観測した「えびの地震」も発生している。自分が暮らす周囲の町の地理的特性も含めて理解しておかないと、「ここでは地震は起こらない」という思い込みにつながってしまう。

熊本地震が発生した直後、現場からは「熊本でこんな地震が起こるとは思っていなかった」との声も聞かれた。熊本地震から学ぶべきことは、過去に起きた災害も含めて、自分が住む土地の成り立ちをよく知っておく必要性だ。県内では南海トラフ地震や日向灘地震のことばかりを警戒しがちだが、県西部では1968年2月に震度6を観測した「えびの地震」も発生している。自分が暮らす周囲の町の地理的特性も含めて理解しておかないと、「ここでは地震は起こらない」という思い込みにつながってしまう。